

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：日本語日本文学科

資格：教授

氏名：上田 和子

研究分野	研究内容のキーワード
日本語教育学	日本語教育学、教師教育、異文化間コミュニケーション
学位	最終学歴
文学修士, 文学士	大阪大学大学院 文学研究科 文化表現論専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. ゼミホームページの開設	2013年6月～現在	ゼミに所属する学生ら同士が、それぞれの活動を共有することを目的としてゼミホームページを開設している。主な内容は、①ゼミの紹介②活動記録③先輩の活躍④交流会の記録⑤プロジェクトワーク、などである。これによって、卒業生も含めた日本語教育ゼミ生同士の情報共有が可能になっている。
2. 学びのネットワークづくり	2013年10月～現在	大日3年、4年それに大学院生をつなぐためのゼミ企画を実施している。①「先輩に聞く(卒業生)」②「先輩に聞く(就活を中心に)」③ゼミ合宿(3年、4年)」など。
3. 海外教育実習とフィールドリサーチ	2012年1月～現在	日本語教育学を専攻する大学院修士課程在籍者を対象に、アメリカでの日本語教育実習(8週間)を実施している。この間、アメリカの大学で日本語授業を担当するとともに、各教育機関を訪問し現地における日本語教育や学習者の実態について調査を行う。実習中に得られたデータは、修士論文研究の一環として考察の対象とすることを目的としている。
4. 海外文化体験演習の実施	2011年10月～現在	大日・短日所属学生を対象に、本学アメリカ分校(MFWI)における英語研修および日本語教育関連機関訪問を含めた多文化理解プログラムを企画・提供している。アメリカ滞在は3週間であるが、その事前準備のための授業を週1回の割合で実施。事前準備は英語で実施することもある。またさらに、アメリカ人講師の協力を得て、英語の授業も取り入れている。
5. プロジェクトワーク	2010年9月～現在	「演習I」(大日3年)で、後期の活動として調査型あるいは開発型のいずれかの形式で「プロジェクトワーク」を行っている。調査型は教材分析などのほか留学生の日本語学習に関する実態調査などを中心としている。開発型は調査に基づいた教材開発や交流会企画及び運営を中心としている。いずれもグループワークを行い、毎週のゼミは企画、計画の進捗状況を報告し、次の課題を明確にして取り組むという流れで行っている。学期の最終段階で各グループワークの成果発表会を行う。
6. フィールド調査	2010年10月～現在	日本語教育現場の状況を知るために、演習I(大日3年)では、日本語学校に赴き、留学生らへのインタビュー活動などを行っている。多文化理解、日本における留学生の状況を知ると同時に、「外国語として学ばれている日本語」を体験的に学ぶことを目的としている。
7. 留学生との交流会	2010年07月～現在	「演習I」(大日3年)および「日本語教育学B」(大日2年)では、本学短期留学生らを授業に招き、グループワークを中心とした交流会を行っている。留学生からのインタビュー(大学生生活、将来設計、若者言葉など)に答える形式を主としている。世界各国からの留学生がどのように日本語を学んでいるか、何に関心をいただいているかなどについて、直接的なコミュニケーションを通して学ぶことを目的としている。
8. ビジターセッション	2010年05月～現在	「日本語教育学A」「日本語教育学B」(大日2年対象)において、①日本語学習者(留学生など)②日本語教員(海外赴任経験者)③外国人英語教員(日本でのALT経験者)らを教室に招き、それぞれの発表から日本語学習や日本語教授の経験を受講生と共有することを目的とした授業を行っている。参加者数によっては、グループワークを行うこともある。
9. 教育実習	2009年08月～現在	日本語教員資格取得のためのプログラムの一環として、国内と海外で希望者を対象に教育実習を行っている。実習校での授業を行う前に、学内で約2週間ほど、教案作成や模擬授業を含む準備を集中的に行っている(2012～)。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
1. 「日本教育工学会FDワークショップ」ファシリテータ合格認定証	2015年04月20日～現在	2014年度日本教育工学会FDセミナー「大学授業デザインの方法ー1コマの授業からシラバスまでー」ファシリテータ講座を受講し、レポート審査の結果、合格の判定を受けた。
2. 「日本教育工学会FDセミナー」合格認定証明	2014年04月～現在	2013年度日本教育工学会FDセミナー「大学授業デザインの方法ー1コマの授業からシラバスまでー」を受講し、合格の判定を受けた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. ACTFL Official OPI Tester	1993年12月	ACTFL(American Council in the Teaching of Foreign Language Oral Proficiency Interview Tester. アメリカ外国語協会認定インタビューによる外国語口頭運用能力判定試験官資格
2. 日本語教育能力検定試験	1992年03月	合格
3. 高等学校1級	1984年03月	国語科
4. 中学校1級教員免許	1980年03月	国語科
5. 高等学校2級教員免許	1980年03月	国語科
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ 英語版	共	2009年01月	株式会社 凡人社	関西国際センター「日本語でケアナビ」開発チームインターネットサイト「日本語でケアナビ」に基づいた和英・英和学習辞典。基本的な専門用語と日常的に職場で用いる表現を含む。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 日本語教育実習の場を構成する人々とその学び	共	2015年(刊行予定)	国際日本語日本研究シンポジウム 香港日本語教育研究会	グローバル人材育成の実践例に国内海外での日本語教員養成の教育実習があげられる。教材研究、授業計画、授業実践などの活動は、教師となるために欠かせない訓練であるが、実習の場は事前指導を行う送り出し側の教員、実習授業の指導を行う受け入れ側の教員、そして実習生の3者によって構成されており、それぞれに相互的、多角的な学びが生起している。それらはどのような知識および実践知であるのか。
2. 日本語学習のためのeラーニングサイトと教師のかかわり方	共	2012年9月	『韓国日本語文化学会』 第22輯	インターネット普及と言語教育現場との関わりを、三つのサイト開発を事例に述べる。技術開発の側面だけでなく、教育プログラムに直接かかわる教師の役割について検討する。 キーワード：ウェブサイト開発、eラーニング、日本語学習、ターゲットユーザー、教師の役割 田中哲哉、川嶋恵子との共著
3. ブログによるプロジェクト評価	単	2009年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』第5号	日本語学習用のサイト開発として行われた実践を、それに参画した人々にとってどのような経験を積み重ねてきたかを、並行して公開されたブログを通じて分析し、プログラム評価の視点から検討する。
4. 専門日本語研修と関西国際センターの10年	共	2009年01月	『専門日本語教育研究』専門日本語教育研究会	三浦多佳史、羽太園、矢澤理子との
5. 「インターネットサイトによる日本語教育支援ー「日本語でケアナビ」の開発と一般公開を事例としてー」	共	2008年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』第4号	田中哲哉、嶋本圭子、前田純子、角南北斗
6. 「初級からの専門日本語教育」への視点ー関西国際センターの実践研究からー	共	2008年03月	『国際交流基金日本語教育紀要』	羽太園
7. 『看護・介護のための日本語教育支援データベース』開発調査をめぐって	単	2007年3月	『国際交流基金日本語教育紀要』第3号	外国人のケアギバーを養成するために必要な日本語教育データベースの作成について。
8. 年少者を対象としたインターネッ	共	2005年3月	『国際交流基金日本語	廣利正代、押尾和美、歳森真紀と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ト日本語試験「すしテスト」開発報告			教育紀要』第1号	
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本語学習者のためのeラーニングサイト開発	共	2012年5月12日	韓国日本語文化学会、韓国外国語大学、ソウル 基調講演として	インターネット普及に伴い、第二言語教育の方法として様々なツールが開発されている。その過程において、外国語教師はどのような役割を果たすことができるのか。三つのサイト開発を事例として、多角的に検討する。 パネラーは、他に田中哲哉、川嶋恵子。
2. インターネットサイト開発と日本語学習支援	単	2012年4月30日	香川にほんごネット（香川国際交流会館 アイパル香川）にて、「平成24年度香川にほんごネット講演会」	地域で活躍する日本語教育従事者らを対象に、1）近年の日本語教育の動向を概観し、2）ウェブサイトを教育現場にどのように活用するか、をテーマに講演した。
3. 日本語教育実習にある学び	単	2009年11月	武庫川国文学会 シンポジウム「日本語教育実習の姓か：多文化共生時代に求められる人材への手がかり」	国内、国外で実施している日本語教育実習の実践例を紹介し、多文化共生時代に求められる人材像を探る。
4. 日本語教育学会 第8回研究会（基調講演）	単	2008年11月	日本語教育学会 研究会 於：高知大学	「日本語でケアナビ」開発と日本語教育
5. 徳島県自治研修	単	2007年09月	於：徳島大学	国際化講座～徳島県の国際化を進めるために～
6. 第一回学習者の自律を重んじた日本語活動・実践研究	単	2006年09月	於：桜美林大学	自律学習ー関西国際センターの実践ー
7. 初級からの日本語スピーチ；だが、いつ、どうやって	単	2005年11月	於：フィリピン日本語教育研究	『初級からのスピーチ』を題材に、コミュニケーションアプローチを応用した成人学習者用の授業展開の紹介。
8. 目的別日本語研修プログラム開発	単	2005年11月	於：フィリピン日本語教育研究会	国際交流基金関西国際センターにおける「外交官・公務員日本語教育研修プログラム」をもとに、成人学習者対象の日本語教育実践の紹介。
2. 学会発表				
1. 異文化間教育学会	共	2015年06月07日	異文化間教育学会第36回大会（於：千葉大学） ケース/パネル発表（指定討論者・ディスカッサント）	グローバル時代の日本語教育事情と教師の立ち位置ー米国・韓国を中心にー 倉地暁美（広島大学）、中山亜紀子（佐賀大学）、加藤鈴子（九州工業大学）と
2. 日本語教育実習の場を構成する人々とその学び	共	2014年11月15日発表予定	2014年第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウムー変化する国際社会における課題と可能性ー	グローバル人材育成の実践例に国内海外での日本語教員養成の教育実習があげられる。教材研究、授業計画、授業実践などの活動は、教師となるために欠かせない訓練であるが、実習の場は事前指導を行う送り出し側の教員、実習授業の指導を行う受け入れ側の教員、そして実習生の3者によって構成されており、それぞれに相互的、多角的な学びが生起している。それらはどのような知識および実践知であるのか。
3. Nihongo de Care-Navi -A multi-lingual Internet site for Care-workers-	単	2012年2月25日	The Spokane Regional ESL Conference 2012	1) General information on the JSL today in Japan and overseas. 2) A great variety of learners and teacher's roles. 3) Nihongo de Care-Navi: as a case of web site producing project: http://eng.nihongodecarenavi.jp/ 4) How and what can we-language teachers- contribute in the society?
4. 日本語学習者のためのeラーニングサイト開発	共	2010年07月	2010世界日本語教育大会 於：台湾政治大学	田中哲哉、熊野七絵、磯村一弘（パネルディスカッションのパネラー） ケアワーカーのための日本語教育サイト、マンガ・アニメサイト、日本語教師支援のためのポータルサイト、そして、テレビ放送された日本語教育教材の4つを例にして、eラーニングサイト開発における日本語教育の視点からの問題点について、パネルディスカッションを行う。
5. 「日本語でケアナビ」と実践的コミュニティ	共	2008年3月	国際交流基金関西国際センター 日本語教育シンポジウム「ひらく・つなぐ・つくる 日本語教育の現場」	Joy Dever, 角南北斗、原田マリアフェ、石井恵理子、田中哲也 シンポジウムにおけるパネルディスカッションで、パネラーの一人として「日本語でケアナビ」インターネットサイト開発が、さまざまな領域の専門家らとの連携によって実行され、それぞれのノウハウが相互的に作用しあって新しい知的創出が行われていたことの報告。
6. インターネットサイト開発にお	共	2008年11月	第8回国際日本語教育・	角南北斗、宮副オン裕子と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
るプログラム評価			日本研究シンポジウム アジア・オセアニア地 域における多文化共生 社会と日本語教育・日 本研究 於：香港大学	シンポジウムにおけるフォーラムでの共同発表。特 にプログラム評価について。
7. 「日本語でケアナビ」開発と多角 的協働	共	2008年07月	世界日本語教育国際大 会 於：釜山外国語大学	Joy Devera
8. 「利用者の日本語を意識した「日 本語でケアナビ」の検索機能」	共	2008年07月	世界日本語教育国際大 会 於：釜山外国語大学	角南北斗
9. 日本語学習支援の領域と視点イー ンターネットサイト「日本語でケ アナビ」開発を事例として	共	2008年03月	日本語教育学会 第11 回研究集会関西地区 於：立命館大学	田中哲哉、角南北斗、前田純子
10. 「日本語でケアナビ」：ケア従事 者のための日本語学習支援サイト の開発	共	2007年10月	日本語教育学会 於：龍谷大学	田中哲也、角南北斗、嶋本圭子 新規開発サイトのデモンストレーション
11. 開かれた研修」のための装置の実 践	共	2004年07月	日本語教育学会	羽太園
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 平成24年度海外文化体験演習報告 書	共	2013年7月	武庫川女子大学 日本語日本文学科	2013年2月～3月にかけてMFWIで行われた英語研修と 日本語教育に関する演習の報告書
2. Cross-cultural understanding b ased on teaching experiences o f teaching Japanese to non-Jap anese.	単	2013年3月14 日	Japanese Cultural Cen ter, MFWI	General information of *What language is Japanese? *Questions from the learners *Teacher education (Japanese language pedagogy) *Japanese language teaching (overseas) JSL/JFL/JSP
3. 平成23年海外文化体験演習報告書	共	2012年7月	武庫川女子大学 日本語日本文学科	2012年2月～3月にかけてMFWIで行われた英語研修と 日本語教育に関する演習の報告書
4. 交流活動の目指すもの「リソ ース」への気づきの場としてー	単	2012年3月	『日本語教育レポート 』第10号 武庫川女子大学日本語 日本文学科 日本語教育研究会	留学生との交流会における参加者の役割について
5. 日本語教師の「日本語力」ー「や さしい日本語」からの示唆ー	単	2010年3月	『日本語教育レポート 』第8号 武庫川女子大学日本語 日本文学科 日本語教育研究会	「やさしい日本語」をめぐる
6. 日本語でケアナビー日本語学習者 のための多言語ウェブサイト	単	2010年10月	於：堺市日本語教育ボ ランティアを支援す るための研修講座 2010年度第三回（大阪 府立大学）	日本語教育支援サイト開発と教師の役割について
7. A Lecture for Indonesian & J apanese Students of an interan tional exchange program.	単	2010年	East Asian Students E ncounter, 2010 at Kwansai Gakuin Uni versity 関西学院大学インド ネシアセミナー	インドネシア人を対象とした日本語教育支援サイト 開発の実践報告。 聴衆はインドネシア人留学生ら。
8. Eラーニング開発：「日本語でケ アナビ」日本語教育支援ウェブサ イト（多言語版：日本語・英語・ インドネシア語）開発	共	2008年	国際交流基金関西国際 センター	日本語教育支援多言語サイトの開発と公開および、 そのプロジェクトリーダー
9. 「こちら「日本語でケアナビ」開 発室」ブログ公開		2007年	国際交流基金関西国際 センター	多言語日本語教育支援サイト開発の実践記録として のブログの作成と公開、およびそのプロジェクトリ ーダ。
10. 平成19年度国際交流基金理事長特 別表彰「ヒット・プログラム賞」		2007年	国際交流基金	受賞理由：社会的ニーズに対応した視点で日本語支 援ツールを地道な努力と創意工夫をで開発し、高い 反響を得、日本語教育事業の可能性を広げた。
11. Eラーニング開発：「日本語でケ アナビ」日本語教育支援ウェブサ イト（日英版）開発・公開	共	2006年	国際交流基金関西国際 センター	専門職のための日本語教育支援サイトの開発と公開 。
12. 報告書：『看護・介護のための日 本語教育支援 データベース開 発調査報告書』「日本語でケアナ	単	2006年	国際交流基金関西国際 センター	専門職のための日本語教育支援サイト開発のための データベース作りに関する実践報告書。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
「ビ」の元である看護・介護関連日本語彙データベースの開発について				
13. Eラーニング開発：「看護・介護のための日本語支援データベース」作成	共	2005年	国際交流基金関西国際センター	専門職のための日本語教育支援サイト開発のためのデータベース作成
14. 報告書：『研究者・大学院生日本語研修追跡調査報告書[平成9～14年度研究者日本語研修][平成15年度研究者/大学院生日本語研修(8ヶ月)]』	単	2005年	国際交流基金関西国際センター	専門日本語研修参加者の動向に関する調査報告書
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2012年4月～現在	武庫川国文学会 副会長